



# おおにしの笑顔

第2号 令和4年5月20日

文責 恩田

- ① もいやりのある正しい子
- ② おきな声であいさつする子
- ③ んたい強くかしい子
- ④ っかり体をきたえる子

## 5月朝会の話「語先後礼（ごせんごれい）」について

最近、子供たちはとてもよく挨拶ができるようになってきました。そこで、さらに時と場に応じた挨拶が上手にできるようになってほしいと思い、5月の朝会では以下のような話をしました。

今日は「時と場に応じた挨拶」についての話をします。

今、体育館に入ってくるときに児童会本部の人が挨拶運動をしてくれていましたね。「挨拶運動」の挨拶は、言われた人が元気が出るようにするものですから、笑顔で元気に言ってください。挨拶運動の時は、丁寧に辞儀はしなくても大丈夫です。どんどん人が通るから、辞儀を丁寧にしているとみんなの顔を見られなくなってしまいますから。丁寧にしたいときは、顔を見ながら首を少し下げれば十分でしょう。これを会釈（えしゃく）といいます。親しい相手なら手を振ったりもしますよね。とにかく人に会ったときの挨拶は、相手の顔を見て元気に言えるのが1番です。

一方、毎日の授業の時は、「お願いします」と言ってからきちんと礼をしていますね。改まった場面では言葉と礼で挨拶をするのが礼儀です。先に挨拶の言葉を言ってから礼をすることを「**語先後礼（ごせんごれい）**」といいます。「語が先で、後から礼」という意味です。挨拶も何でも、相手に何か言う時は、相手の顔を見てというのが基本です。お辞儀をしながらお願いしますと言うのは、床に言っていることになります。相手の顔を見て言葉を発する、そしてお辞儀をする。これが改まった場面でのマナーとして美しい作法です。

また、実は「語先後礼」は、深い思いやりの心も表れた動作です。たとえば耳の聞こえの良くない人は、人の口の動きで何を言っているのかを理解します。ですから、下を向いて何か言われるとわからないのです。きちんと口の動きを相手に見せるという意味でも、言葉と礼は別になります。コロナ禍になってからは、マスクをしているために、口の動きが見えなくなってしまいましたが、もともとはそういう意味もありました。

このように挨拶の動作一つとっても、そうすることにはきちんと意味があります。**マナー・礼儀などは、全て「人への思いやり」がもとになっているのです。**だから、その動作は見た目にとっても美しくかっこいいのです。

## 安全教育の取組の紹介

子供たちが安全・安心に生活できることは何よりも大切なことです。学校では様々な安全教育や、安全確保のための取り組みをしています。その一部をご紹介します。



**避難訓練** 年に数回、様々な想定で避難訓練を行っています。4月20日は地震発生想定での避難訓練を行い、教室からの避難経路の確認をしました。



**一斉下校** 年に数回、全学年が地区ごとに並んでの集団下校（一斉下校）を行っています。4月24日の一斉下校では、各地区担当の職員が朝の集場所近くまで一緒に歩いて、通学路の安全確認をしました。

